

■北海学園大が劇的逆転で3連勝。北海道大とともに首位。第5節

第49回北海道学生選手権は第5節の9月24日、札幌市円山競技場で1部の2試合を行い、北海道大が21-0で帯広畜産大に、北海学園大が35-33で釧路公立大に勝利した。北海道大と北海学園大はともに3連勝。帯広畜産大は2勝1敗、釧路公立大は2敗となった。第6節は10月1日、札幌市円山競技場で北星学園大-室蘭工業大、北海道大-釧路公立大の2試合を行う。

前年度優勝の北海道大と同4位の帯広畜産大の一戦は、両チームの守備が頑張り前半はともに無得点だったが、第3Q開始と同時に北海道大の攻撃に火が付いた。WR宮崎大地（4年、兵庫・星陵高）がキックオフで53ヤードのビッグリターンを見せると、敵陣30ヤードからの攻撃シリーズでRB榊琢也（4年、札幌東高）の連続ランで先制TD。同8分にも20ヤードランで加点した。第4Q11分にはQB神田智史（2年、東京・麻布高）からWR宮崎へ31ヤード弾が決まり、21-0とした。



帯広畜産大は、RB安澤十野（1年、帯広柏葉高）のランとQB外崎智文（3年、大野農業高）のパスでボールを運んだが、Kも兼ねるWR桂田陽向（2年、福井・若狭高）が第1Qに36ヤードFGを外して先制を逃した。第2Qにも21ヤードのFGを狙ったがスナップミスで失敗。2本のインターセプトも痛かった。

北海道大の降梁祐介HCは「前の試合が100点ゲームで油断があったかもしれない」と前半の試合運びに不満げ。2TDのRB榊も「宮崎のリターンで雰囲気良くなった。TDプレーもラインのブロックが良かった。次の釧路公立大戦は、試合の入りから100%で行きたい」と反省していた。一方、帯広畜産大のOL西龍一郎主将（4年、京都・桃山高）は「先制点を取れなかったのが痛かった。要所要所で力の差が出たが、目標の2位に向け、次の北海学園大戦に臨みたい」と巻き返しを誓っていた。

前年準優勝の北海学園大と同3位の釧路公立大の対戦は、26点差を追う北海学園大が後半に4TDを奪って劇的な逆転勝ちをした。北海学園大は第3Q9分、RB高杉武生

(3年、浦河高)の1ヤードダイブで14-33と追い上げ開始すると、第4QにはQB篠原浩大(4年、札幌北陵高)がWR八乙女凌太郎(2年、札幌東陵高)へ5ヤード、同7分にWR成田滉佑(2年、札幌白石高)へ44ヤード、同9分にはWR加藤真之助(2年、札幌藻岩高)へ35ヤードのTDパスを立て続けに決め、35-33と鮮やかに逆転した。



釧路公立大は7点を追う第2Q、QB山口響生(3年、札幌清田高)からWR伊原和哉(3年、新潟・新潟西高)への29ヤード弾と相手ミスによるセーフティー、RB内海太陽(4年、江差高)の1ヤードラン、Kも兼ねるOL高橋勇利(4年、秋田・大曲高)の38ヤードFGで一気に19点を奪い逆転。第3QにもRB内海の4ヤードラン、QB山口の1ヤードキープで33-7とリードを広げたが、北海学園大の反撃を止められなかった。

北海学園大の高木幸樹HCは「最後に体力の差と、4年生QBの経験の差が出た。今年のチームのいい形も見えてきた」と選手たちの頑張りをたたえた。先制点も含めて4TDパスのQB篠原は「逆転の場面は、レシーバーを信頼して決め打ちだった。ミスのできない場面でしっかりとTDを取れたのが収穫」と手ごたえをつかんでいた。釧路公立大の伊藤祐介コーチは「第3Qまではゲームプラン通りにできた。守備が想定以上に頑張った。ただ、チャンピオン級のチームを倒すにはまだ力が足りなかった」と残念がり、主将のRB牧野幹大(4年、札幌藻岩高)は「北海学園大をここまで追い詰めたのは後輩選手のおかげ。次の北大戦でも自分たちの出来ることをしっかりとやりたい」と力を込めた。